

続・月の名を持つホールにて

松田妙子

六月号にルナホールで開かれる集会で、作家で社会運動家のA・Kさんをゲストに迎えることになり、私もその前座で紙芝居を披露するので、予備知識を得るため、A・Kさんの著書を読んできました。すると猛烈な不快に襲われ、あまりに辛いので周囲の人に訴えてみましたが、私がなぜそんなに苦しむのか、誰も理解できないようでした。自分と同じ種類の人間というものは、本能的に嗅ぎ分けられるものです。私はA・Kさんにその臭いを感じ、でもすっかり彼女に共感してしまふには、生まれ育った時代が違いすぎるといふ事実の壁に愕然としました。A・Kさんは私より二十才も年下なのです。

A・Kさんが繰り返し返す訴える「生きづらさ」は、私にもなじみふかいもの。でも私は、ニートやメンヘル、ひきこもりといった言葉もなく、摂食障害という病名も与えられなかった時代を、誰にも理解されず、たった一人で闘わねばならなかったのに。症状でさえ、自分で「発明」せねばならなかったのに。私たちが未開のジャングルを、血みどろになって切り拓いて来た道を、後からゾロゾロとついて来る連中がいる。くそっ！

私がA・Kさんの存在を最初に知ったのは、数年前の光円寺報紙上です。あの時も私は、彼女の言う「生きづらさ」に自分と共通するものを感じ、それを社会のせいだと主張しているA・Kさんに強い反発を感じました。思わず光円寺さん宛に怒りの手紙を書き送ったほど。それくらい、A・Kさんの存在は最初からインパクトがあったのです。私なんか、そんな風に他に責任を転嫁することも許されず、全て自分で引き受けねばならなかったのに。どんなバイトをしてもすぐにクビになるのは、社会に適応できないお前が最低の人間だからだ、と罵倒

され続けてきたのに。のに、のに、のに！

やれリストカットしたの、向精神薬の飲みすぎで胃洗浄を受けたあの、そんな「傷」をこの人は勲章のように幾つもぶら下げて、見せびらかしている、それを売り物にして、世間でもはやされている。私にはそう見えるのです。そして、そんなことが「売り物」になる時代に生まれ合わせなかったことに、地団駄を踏むのです。なぜなら、私はとても自己顕示欲が強い人間だから。絶えず「私を見て！私をわかって！」という光線をギラギラ発して、他人の関心を引きたくてたまらないから。自分を可哀想に見せて、同情だって引きたいから。いつも考えていて、それを表現して人に伝えたくてたまらないから。A・Kさんにも同じものを感じます。なのに彼女の方が私より遥かに他人の関心を引くことに成功しているから（つまり世間的な知名度が高いから）、悔しいです。

私にとってA・Kさんの存在は、歪んだ鏡のようなもの。そこには私によく似た、でも私ではない人間が映っています。歪んだ鏡だから、とても醜いのです。それをのぞきこむたび、私は私自身の醜さと対峙させられます。

問題はA・Kさん本人にあるのではなく、私の方にあることもわかっていくつもりです。それが、私がもう若いということに気づいたところにあるのだということも。思春期で発病した私は、思春期の心のまま、何十年も冷凍保存されていたようなもの。やっと「雪解け」になり、さあこれからが人生の春だと思っただ途端、人生の暦はもう秋になっていくことに気づいたのです。だ



から私はこれを「心の更年期」と考えます。このどろどろした醜い感情とも、当分つきあっていかねばならないでしょう。だって思春期も、不安定な、やりきれない状態が長く続いたのです。子どもから大人になる時がそうであれば、その大人が「老い」の入口に入っていく時も、きっとそんな状態が持続するのだろう、と予測できるのです。

私が二十世紀の半ばに生まれ、A・Kさんがその二十年後に生まれたという事実は、変えられないもの。そう思った時、摂食障害の自助グループでいつも唱えられる「平安の祈り」を思い出しました。

——「神様、私にお与え下さい。変えられないものを受け入れる落ち着きを。変えられるものは、変える勇気を。そしてその二つを見分ける賢さを。」——私は幾度となくこれを口にしていながら、

この言葉を本当に受けとめてはいなかったのではないか。もしかしてA・Kさん、これに気づかせるために、私の前に立ち現れたのかも。そして、その端緒を与えてくれた光円寺報に、今私がこんな文章を書いていることの不思議。

A・Kさんの書かれたものを読むと、良くも悪くも、この人はまだとても若いのだ。と思わされます。私はかつて、「若い人たちに、“年を取るのも悪くないな”と思ってもらえるような、カッコいい年寄りになりたい」と思っていました。今、老いの入口に立ってみると、めちゃくちゃカッコ悪いです。でも、変えられないものを受け入れ、変えられるものを変える勇氣。その言葉を胸に刻んで、さあ、六月にA・Kさんと同じ舞台に立った時、私は何を言うのでしょうか。月の名を持つホールにて。

2012、5、11、4:15PM*

*松田さんのオリジナル紙芝居、トークのある芦屋九条の会雨宮処凛講演、芦屋ルナホールのチケット光円寺にあり。差し上げます。